



協会理事長よりご挨拶

特定非営利活動法人
日本ホームインスペクターズ協会
理事長 長嶋 修

「これから1990年をはるかに超える、史上最大の「資産バブル」が発生する可能性がある。日経平均は4万円を超え、不動産を始めとあらゆる資産価格がさらに上昇する」、「これは数年間続き、ある日突然終焉を迎えるが、この時、首尾よく次の金融システムに移行しソフト・ランディングできるのか、戦後のような大混沌を迎えるハード・ランディングとなるのかはわからない」、「このようなシナリオが成立しない場合でも、歴史的な社会・経済システム転換は避けられない。ところが我が国は政官財ともに劣化し身動きがとれず、主体的な変革を起こすことはできず、ある日リセットボタンが押される」、「政治・経済・金融の混乱は大きく、天災地変が重なる可能性もあり、これまで溜めてきた膿みを生産し、新しい社会の枠組みが構築されるまでの「過ぎ越し」の期間として一定の社会的混乱・混沌は避けられない。歴史を見るとこうしたタイミングで同時に紛争・戦争や革命、疫病などが起きることも多い」、「世界の経済金融システムはもちろん、社会的な大きな変革期の兆候はすでに出ているが、大きな動きは早ければ2024年に始まり、2030年くらいまでには新しい社会スタイルが定着する。この一連の過程をWEF(World Economic Forum / 世界経済フォーラム)の年次総会では「グレート・リセット」と呼ぶ」、「このようなプロセスのなかで、私たち一人ひとり、基本的な価値観はもちろん、仕事や投資のあり方、生活のあり方まで大きな転換を迫られる」

現在の状況は、1980年代後半から90年にかけてのバブル期と似ている。戦後の長期的な高度経済成長を経て一定程度モノやサービスが行き渡ったあと経済成長が鈍化する中、1985年のプラザ合意で一気に為替がドル安・円高へと進み、240円程度だった円が150円、やがて120円台へと一気に動き、「円高不況入りか?」といった危機意識がもたらされ、大規模な財政出動や金融緩和が行われることに。それが当時の、あのものすごいバブルを生み出すきっかけとなった。

1980年代と言えはすでに不動産が相当に高くなっており、したがって不動産市場も「円高不況が予想される今が天井ではないか?」と、まことしやかに言われていた。ところがこの後、はたしてどうなったか。結果は御存知の通り。1985年(昭和60年)から猛烈な土地バブルが始まり、1991年(平成3年)のピークまで天井知らずでドド〜ン!と駆け上がっていく。

もちろんこのような事態が起こらないシナリオも。でも結末は一緒。日本はもちろん世界の経済金融システムのリセット、政治的な大動乱、風水害や地震などの天災地変に、AIやロボット化などテクノロジーの進展が相まって、これまで私達が経験したことのない時代がやってくる。